

ALSリハビリ評価 A4整理シート

評価領域 → 初回の優先順位 → 変化時トリガー → 次アクションを1枚で整理

評価日：	評価場面：初回 / 定期 / 変化時	担当：
------	--------------------	-----

1 | まず安全性に直結する変化を確認

呼吸	嚥下・栄養	意思伝達
☐ 息切れ・呼吸困難 ☐ 起坐呼吸・睡眠時の変化 ☐ 咳の弱さ・痰の出にくさ	☐ むせ・食事時間の延長 ☐ 摂取量・水分量の低下 ☐ 体重減少・脱水が疑われる変化	☐ 発話低下・発話疲労 ☐ 伝達速度の低下・意思確認困難

該当する変化があれば、予定していた再評価日を待たず、必要な詳細評価・多職種共有を検討します。

2 | ALSで見る評価領域を抜けなく整理

確認	評価領域	主に確認すること	次に進む評価・連携
☐	全体機能	ALSFRS-Rなどで機能推移をそろえる	ALSFRS-R・全体機能の再確認
☐	呼吸	症状・呼吸機能・咳の有効性など	呼吸評価・呼吸管理の相談
☐	嚥下・栄養	むせ、食事時間、摂取量、体重など	嚥下・栄養評価
☐	コミュニケーション	発話、疲労、意思伝達、AACの必要性	AAC・意思伝達評価
☐	運動機能・移動	筋力、ROM、姿勢、歩行・移乗、転倒	個別機能評価・移動方法の見直し
☐	ADL・環境	介助量、福祉用具、住環境、家族支援	福祉用具・環境調整
☐	認知・行動	認知・行動変化、意思決定への影響	医師・心理職等と共有
☐	疼痛・QOL・支援	痛み、本人の希望、家族負担、社会参加	多職種で目標・支援を再調整

3 | 初回は「安全性 → 全体機能 → 生活 → 次アクション」の順

Step	優先	確認内容	この段階で決めること
1	安全性	呼吸・嚥下・栄養・意思伝達の変化	先に深掘りすべき領域
2	全体機能	ALSFRS-R、運動機能、移動能力	継続して追う指標
3	生活	ADL、介助量、環境、本人・家族の困りごと	現在の優先課題
4	次アクション	必要な詳細評価、担当、再評価条件	誰が何をいつ確認するか

4 | 変化時トリガーと「次に深掘りする評価」を決める

主なトリガー：息切れ／起坐呼吸／弱い咳／むせ／食事時間・体重・摂取量の変化／発話疲労／移動・介助量の変化 など

☐ ALSFRS-R ☐ 呼吸評価 ☐ 嚥下・栄養 ☐ AAC／意思伝達 ☐ 福祉用具・環境 ☐ 多職種カンファ

変化時メモ

5 | 評価サマリー：変化 → 生活・安全への影響 → 次の対応

変化	
生活・安全への影響	
次の対応	
担当／期限	

本シートは診療ガイドラインの公式様式ではなく、rehabiliikunblogがALSリハビリ評価の抜けを減らし、次の評価・連携を整理する目的で作成した補助ツールです。個別の評価・対応は、患者の状態、医師の指示、各専門職の判断、施設の手順に従ってください。